

1. 単元名 日本の諸地域 中国・四国地方 一人々を呼び寄せる地域の取組—

2. 指導について

(教材観)

本単元「第3章日本の諸地域」は、『中学校学習指導要領解説社会編地理的分野』の(2)「日本の様々な地域」にあたり、「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して、日本の諸地域の地域的特色をとらえさせる」ことを主なねらいとしている。

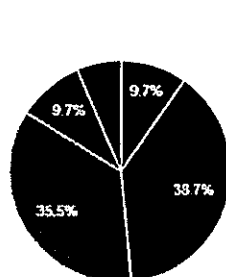
中国・四国地方は、中国山地や四国山地という地形的な影響から、日本海側・瀬戸内海沿岸部・太平洋側でそれぞれ気候の特色に違いが見られる。また、人口に焦点を当てると、古くから工業が盛んで、高速道路や新幹線、本州四国連絡橋などの交通網が整備された瀬戸内海沿岸部に都市が点在し、そこに人口が集中している。その一方で、南四国や山陰地方では、人口の減少と高齢化が進行し続けるという、過疎化が大きな問題となっている。こういった地域では、経済活動が衰退し、公共交通機関の整備が難しくなるなど、地域社会の維持が非常に困難となっている。しかし、こうした過疎地域の中には様々な特色を生かした町おこしに取り組んでいるところも多い。そして、こうした過疎地域は全国に広がっており、その改善が日本の将来に向けての大きな課題となっている。

本単元の学習では、中国・四国地方には、過疎地域が多く存在することに気づかせ、その理由を考察させることを通して、さまざまな視点から事象間の関連性を見出し、最終的にこの地域の特色を明らかにしていきたい。過疎の問題は今後の日本にとっては非常に重い課題であり、その解決策は決して容易には見つからない。しかし、この問題を他人事と考えずに、少しでも解決策を見出そうとする姿勢が大切であり、こうした姿勢が見られるような授業にしたい。

(生徒観)

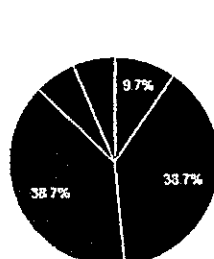
生徒は全体的に落ち着いた態度で授業にのぞんでいるが、積極的に自分の意見や考えを発言する生徒は少ない。しかし、ペアワークやグループワークにすると自分の考えを伝えている様子が見られる。

社会科の学習は好きですか



- 好き
- どちらかというが好き
- 好きでも嫌いでもない
- どちらかというが嫌い
- 嫌い

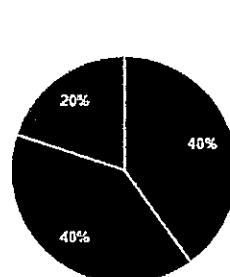
地理の学習は好きですか



- 好き
- どちらかというが好き
- 好きでも嫌いでもない
- どちらかというが嫌い
- 嫌い

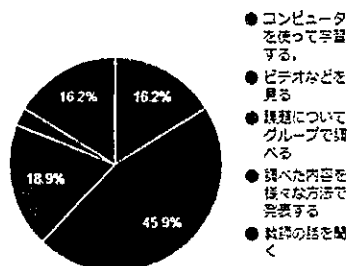
○事前調査より(アンケート実施:31名)

「どちらかというが嫌い」または「嫌い」と答えた人に聞きます。その理由はなんですか。(複数回答可)

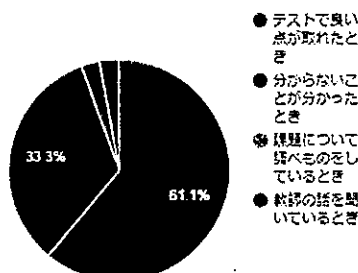


- 地名などを覚えるのが大変だから
- ④河を勉強しているかわからない
- 興味がないから

社会科の学習で好きな学習活動は？（複数回答可）



社会科を学んでいて「楽しい」と感じるのはどんなときですか。



1. 社会科の学習は好きですか。

①好き(3人) ②どちらかというと好き(12人) ③好きでも嫌いでもない(11人) ④どちらかというと嫌い(3人) ⑤嫌い(2人)

2. 地理の学習は好きですか。

①好き(3人) ②どちらかというと好き(12人) ③好きでも嫌いでもない(12人) ④どちらかというと嫌い(2人) ⑤嫌い(2人)

3. 2の質問で「どちらかというと嫌い」または「嫌い」と答えた人に聞きます。その理由はなんですか。（複数回答可）

①地名などを覚えるのが大変だから(2人) ②何を勉強しているかわからない(2人) ③興味がないから(1人)
④白地図などの作業が苦手だから(0人) ⑤なんとなく(0人)

4. 社会科の学習で好きな学習活動は？（複数回答可）

①コンピュータを使って学習する。(6人) ②ビデオなどを見る(17人) ③課題についてグループで調べる(7人)
④調べた内容を様々な方法で発表する(1人) ⑤教師の話聞く(6人)

5. 社会科を学んでいて「楽しい」と感じるのはどんなときですか。（複数回答可）

①テストで良い点が取れたとき(22人) ②分からないことが分かったとき(12人) ③課題について調べものをしているとき(1人)
④教師の話聞いているとき(1人)

社会科の学習・地理の学習ともに、「好き」あるいは「どちらかというと好き」と答えた生徒が半数ほどいるが、残りの半数は「好きでも嫌いでもない」「どちらかというと嫌い」「嫌い」と回答している。地理の学習が「どちらかというと嫌い」「嫌い」と回答した生徒の理由に「何を勉強しているかわからない」と回答する生徒がいたが、授業のねらいが生徒に明確に伝わっていないということが考えられる。また、社会科の学習で好きな学習形態に「課題についてグループで調べる」と回答した生徒も見られる。そこで、今回の授業では与えられた課題について自分たちで主体的に調べ、まとめた内容を他者にわかりやすく伝えるという一連の学習を通じて、学習に対する意欲の喚起と表現力の育成に努めていきたい。そして、社会事象を多面的・多角的にとらえさせることで思考力・判断力を高めるとともに、将来を担う社会の一員として主体的に社会参画しようとする姿勢を持たせたいと考える。また、「何を勉強しているかわからない」生徒に対しては、学習課題を明確にさせ、調査方法の視点や資料の見方を助言することで、学習する目的を持たせ、さらには自ら調べてわかることの達成感を味わわせたい。

（指導観）

本単元では、地域の課題の解決策について考察し、学習場面に応じた表現活動を行っていく。生徒に考えてもらう前に、過疎化の問題点は何かを整理し、中国・四国地方の過疎化が進んでいる地域がどれくらいあるのかなど資料から読み取ってもらう。その現状を読み取り、複数の面や視点から地域の課題の要因を説明する。そして、中国・四国地方のまとめとして、地域の課題の解決策についてグループでアイデアを出し合い、地域おこしを企画してもらう。自分の考えを他者に伝え、グループでの意見をまとめる活動をすることにより、中国・四国地方の地域的特色を総合的に捉える。これらのことから、資料から地域の課題の解決策について考える学習活動の工夫を通して、地理的事象について考察し適切に表現する力を育てることができると考える。

3. 単元の目標

- ・中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。また、人口減少にともなう地域への影響と、それに関連する自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生じる課題について理解する。(知識及び技能)
- ・中国・四国地方において、人口減少への影響を、人々の対応、他地域との結びつきなどに着目して、自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生じる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。(思考・判断・表現)
- ・中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・人口減少にともなう地域への影響とそれに関連する自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生じる課題について理解している。	・中国・四国地方において、人口減少にともなう地域への影響を、人々の対応、他地域との結びつきなどに着目して、自然環境、産業、人々の生活の様子や、そこで生じる課題と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。	中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

5. 指導と評価の計画(全5時間)

次	時	ねらい・学習活動	評価(○:「評定に用いる評価」●:「学習改善につなげる評価」)				
			知	思	態	評価規準	評価方法
	1	1. 中国・四国地方の自然環境 ・山陰・瀬戸内・南四国の3つの地域の自然環境の特色を、地図と雨温図から理解する。	○		●	・山陰・瀬戸内・南四国の3つの地域の自然の特色を地図や雨温図から読み取っている。(知識・技能) ・中国・四国地方の地形や気候の特色に関心を持ち、主体的に追究しようとしている。	・ワークシート ・挙手 ・発言
	2	2. 交通網の整備と人々の生活の変化 ・交通網の発展による地域の影響について、メリットとデメリットの両面を理解する。	●		○	・交通網の発展による地域の変化について、地域にとってのメリットとデメリットの両面から考えている。(主体的に学習に取り組む態度) ・さまざまな資料を活用して、交通網の整備によって他地域と結びついたことによる地域の変化を適切に読み取っている。(知識・技能)	・ワークシート ・挙手 ・発言
	3	3. 瀬戸内海の水運と工業の発展	○	●		・さまざまな資料から、交通の利点を生かした工業の特色を適切に読み取っている。(知識・技能) ・瀬戸内工業地域の特徴を捉え、瀬戸内で工業が発達した理由を	・ワークシート ・発言 ・グループワークでの活動の様子

					説明できる。(思考・判断・表現)	
	4	4. 交通網を生かして発展する農業 ・中国・四国地方の農業の地域的な違いを、自然環境などと関連付けるなどして、大まかに捉える。	○	●	・各地の農業や漁業を自然環境と関連付けて理解している。(知識・技能) ・瀬戸内や南四国で生産される農産物は、どのようにして競争力を高め、市場に広げてきたのかを説明できる。(思考・判断・表現)	・ワークシート ・発言 ・グループワークでの活動の様子
	5	5. 人々を呼び寄せる地域の取組 ・過疎地域における高齢化を資料から読み取り、様々な取り組み取られていることを捉える。	○	●	・過疎化や高齢化が進む地域の実態を捉え、自分ごととして考えることができる。(主体的に学習に取り組む態度) ・過疎対策について、地域の自然環境や人々の生活、産業などに関連付けて自分なりに考えている。(思考・判断・表現)	・ワークシート ・発言 ・グループワークでの活動の様子

6. 本時案(第5時)

(1) 目標

- ・過疎化の問題点を整理し、中国・四国地方で過疎化が進んでいる地域はどれくらいあるのか、人口推移の資料などを読み取り、中国・四国地方が抱えている問題を理解することができる。(知識及び技能)
- ・過疎対策について、地域の自然環境や人々の生活、産業などに関連付けて自分なりに考えることができる。また、過疎地域が抱える諸課題とその対応策について考えをまとめ、それを他者にわかりやすく伝えることができる。(思考・判断・表現)
- ・中国・四国地方の過疎化や高齢化が進む地域の実態を捉え、その課題を自分ごととして考えることができる。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 学習過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点	□資料 ○評価規準
導入 5分	・本時のめあて ・岡山県の空港の名前を考える。 ・岡山県の桃太郎と田原本町の桃太郎の発祥の理由を理解する。	A. 桃太郎空港	・中国・四国地方の総まとめの範囲になるので、岡山と言えば何かを考えさせる。 ・岡山県で桃太郎が有名な理由を簡潔に説明する。 →田原本も桃太郎が有名だという話につなげ、自分たちの地元に興味をもってもらえるようにする。 →岡山県では、桃太郎をモチーフにした観光地やお土産など観光客を呼び寄せる一つ	□写真「岡山空港」 □写真「吉備津神社」 □写真「田原本の桃太郎のキャラクター『ももたん』」

			の例としてあげられることを伝え、本時では「地域おこし」をテーマにすることを説明する。	
見 聞 6 分	▶山間部や離島で進む過疎化 ・「過疎化」の復習 ・過疎化になると出てくる問題を考える。 ・中国・四国地方の過疎化が進んでいる地域を示した地図を見る。 ・中国地方の人口推移のグラフを見る。 ・四国地方の人口推移のグラフを見る。 ・中国・四国地方が全国に先駆けて人口減少が進行している理由を考える。  地域の活気を取り戻さないといけない! =地域おこし	・土地が荒れすぎて、人が住めなくなる。 ・田んぼを手入れする人がいなくなり、田んぼが荒れる。 ・スーパーや病院が少なく暮らしにくい。 ・大阪のような栄えた町がないから。 ・田舎やから。 ・都会へのアクセスが悪い。	・「過疎化」の語句を知るだけでなく、過疎化になると起こる問題まで考えさせる。 ・地図を見て、人口の少ない地域、人口が集中している地域がどこに分布しているか読み取らせる。 ・人口推移のグラフから何年が人口のピークか、2025年以降の人口減少の割合、年齢別の割合などに着目させる。 →少子高齢化が着実に進んでいることを読み取らせる。 ・生徒が考えやすいように自分ならどんな理由で他県に移住するかを途中で聞く。 ・県別年齢人口の割合を見て、中国・四国地方の65歳以上の人の割合が全国よりも高いことに気づかせる。 ・生徒が考えやすいようにワークシートの記入も含めて例を挙げる。 (教科書:202 ページ)	○過疎化の問題を自分ごととして考え、どんな問題が起こるか主体的に考えることができる。 ○地図やグラフなどの資料の読み取りができる。 □図「中国・四国地方の過疎化が進んでいる地域を示した地図」 (星マーク:県庁所在地) □図「中国・四国地方の人口推移のグラフ」 ○人口減少が進んだ理由を自分の言葉で説明することができる。 □図「中国・四国地方の県別年齢人口の割合」 ○過疎地域が抱える諸課題とその対応策について考えをまとめ、それを他者に分かりやすく伝えることができています。 ○班で話し合い、積極的に意見を

発表 7分	▶地域おこしを企画してみよう ①カードに書かれた県の中から過疎化が進んでいる市町村を1つ選ぶ。 ②その市町村の特徴をまとめる。 ③市町村の特産物・観光地・伝統・文化などその地域で推していきたいものを選ぶ。 ④それをどのように活用して、人々を呼び寄せるのか、地域を活性化させるのかを考える。 ・グループごとに考えた地域おこしを発表する。 ↓ 全グループの発表を聞いた後に、どの地域に1番行きたくないかを聞き、1位を決める。	①徳島県上勝町 ②徳島県東部の山あいにある町で中心部から車で1時間ほどの距離にあり、人口流出が続いたため、過疎化と少子化・高齢化に直面している。 ③料理を引き立てるために添えられる季節の菜や花などの「つまもの」 ④「つまもの」は軽量のため、高齢者でも女性でも収穫がしやすく、山の狭い農地での少量の生産に向いている。高齢化の進む地域でも始められる新しい農業である。	・例であげた徳島県上勝町の話は既実践されているものなので、生徒にはまだ実践されていないような新しいアイデアを企画するように説明する。 ・発表する際、選択した各市町村のどこに視点(特産物・観光地・伝統・文化)を当てたのか明確にさせる。 ・発表を聞く側は、発表に対する意見などをメモするように伝える。 ・全グループの発表を聞いた後に、どの地域に1番行きたくないかを聞き、1位を決める。	出している。 ○他の班の意見をワークシートに記入している。 □写真:つまもの ○ワークシートに口頭で説明したことをメモしている。
まとめ 2分	・めあてにそって本時の授業の振り返りをする。		・授業のまとめでは、本時で学んだことを思い出せるように簡潔に伝える。	

第2節 中国・四国地方

5. 人々を呼び寄せる地域の取組（教科書：198～199）

組 番 名前

- (1) 過疎化や高齢化が進む地域の実態を捉えることができるようになる。
(2) 地域の特色や観光業等を生かした地域おこしについて考える。

▶ 山間部や離島で進む過疎化

- ・ (① _____) : 地域社会の人口が著しく減少した結果、住民が一定水準の社会生活が営めなくなった状態。

○ (① _____) になると…

▶ 人口推移のピーク

- ・ 全国の人口ピーク：2008 年（1 億 2808 万人）
→ 中国地方：(② _____)
→ 四国地方：(③ _____)

○ 中国・四国地方が全国に先駆けて人口減少が進行している理由は何だろう？



地域の活気を取り戻さないといけない！

(=④ _____)

◎ 地域おこしを企画してみよう！！！！

(1) 選んだ県とその市町村 → (_____)

第2節 中国・四国地方

(2) 市町村の特徴は？

(3) 市町村の推していきたいもの（特産物・観光地・伝統・文化など）

→ (.....)

(4) それをどのように活用して、地域おこしをするのか。

○他のグループの考えた地域おこしをメモしてみよう。

▶文化財や伝統文化を生かす取り組み

・島根県：出雲大社・石見銀山・石見神楽

→米子自動車道や浜田自動車道などが開通

→観光客が増加

▶交通網の整備が後押しした観光地

・鳥取県：鳥取砂丘・なしの観光農園・境港市「水木しげるロード」

・境港市：米子空港が近い＋高速道路が開通

→観光客が増加

▶島ならではの特色を生かした地域おこし

・瀬戸内しまなみ海道

→サイクリングコースの整備

→観光客が増加